

# 高雄日本人学校の風

校長 高口和治

予告：4年生、5年生が社会科の時間に「日本の農業」の特設授業でJA山形から授業に来てくれます。授業は4、5年生のみですが、全校の皆さんにリンゴ、ラ・フランスをプレゼントしてくれることになっています。11月26日の先の話です。

## 10月30日(火)

生徒会役員会長、副会長、副会長、書記がお昼休みに校長室に来ました。話の内容は、生徒会で活動をする上で、「世界一あいさつができる学校」の垂れ幕を新しい物にして欲しい、というものです。私としては、カビが生えてきたし、いい考えだと賛同です。が、そこは校長、「あたらしくしたのはいいけど、どのようなことを考えているの?」「私が担任だったときに、40人生徒がいて、しゃべる生徒とほとんどしゃべらない生徒がいて、これでは担任としてまずいと思って、チェックをしたことがあった。君たちは学級でそのような差はない」と、様々なことを話しました。挨拶は、きっと人間関係の壁を取り払ってくれる最初なんだと思います。

## 10月3日(水)

佐伯先生が中3で数学で公開授業を行いました。円周角と中心角の学習です。具体的操作をする中で発見をさせる授業でした。

瑞祥高校の学生が日本人学校にきました。今年は、申し入れがあって、一緒に烏山頭ダムの見学をすることになりました。その顔あわせです。四年生が頑張ってくれて、南中ソーランを歓迎セレモニーで披露しました。その後、顔あわせをして、一緒にゲームをしました。高校生も大変楽しそうでした。台湾の高校の歴史教科書を何冊か見せてもらいました。八田興一に関しては、必ず載っています。私達日本人が誇ることができる日本人の一人でしょう。

## 11月 日(木)

10時12分に校舎から火が出たという想定で避難訓練を行いました。小学部は休み時間に入っていました。担任がいないのに、放送を聞いてしっかり動いていました。春の地震を想定したときは、3分18秒で、今回は3分25秒でした。ばらばらになっていたのにこれくらいの時間であれば十分です。私は、学校火災の経験が2回あります。校長になってからも、ぼやが一回あり、消防車がきたくらいです。が、もちろん避難訓練はしていますので、慌てる生徒はいませんでした。とにかく慌てなければ大丈夫です。ぼやが出た学校の学校建築に関わっていたので、燃え広がるのに30分以上かかる設計になっていることを知っていましたので、なおさら慌てることもありませんでした。

訓練が終わって私の話の時に、デパートや駅、マンションで中国語の放送を聞くことができるかどうかは、命に関わりますということで、曾先生に発音をしてもらいました。「失火了」「起火了」「著火」聞いて分かる人ということで、手を挙げてもらったら、半分くらいの子どもが手を挙げていました。私も含めて日本人学校の教員は全滅に近かったようです。

3時間目に渡辺先生が烏山頭ダムに関わって、殉工碑に関係する授業をしました。写真資料から、読み取る力をつけようというねらいがあります。八田與一は、日本の中学校の歴史の教科書でも取り上げられています。(日本人学校使用の教科書にはありません)私自身、こちらにくるまでは、その名前さえも知りませんでした。現在の日本の社会科教師が取り扱えるとは思いませんが、少しずつ広まっていくことと思います。授業も、植民地時代であるのに、亡くなった方の名前を刻むのが、台湾人も日本人も一緒になっています。そこから、八田與一の人柄、工事の有り様を探らせるという授業でした。私達日本人の植民地経営のあり方を示す代表的な事例だと私は思います。

4時間目には中島先生が国語の授業をしました。「似た意味の言葉、反対の意味の言葉」という内容です。①上の反対は？、右の反対？ ②大きい反対？ 明るい反対？ ③出るの反対？ せめるの反対？ というように授業が進みます。

それぞれ①下、左②小さい、暗い③入る、守る です。

①は、方向や時間などが反対②は、人や物事の様子や性質が反対③人や物事の動きが反対 という分類があるのだそうです。

高口：そうか、自然に使っていたけど、そういう分類があるのかと、感心。

甘い反対は？ 授業では、「からい」「にがい」ということに。子どもが一人、「しょっぱい」と、私も同様に思ったのですが、文法的には言葉を重ねているので、その意味で違うらしいのです。うーーーん、むずかしい。

曾先生に聞きました「中国語では、甘い反対は、苦いで一つの対応だと。」じゃ、ということで、「しょっぱい」と「しおからい」は日本人は違うと感じているけど、中国語では「鹹」しかない。しょっぱいを引いても同じ単語しかでない。では、国語の授業で子ども達はどう感じたのか？と中島先生に「子どもに聞いておいて」と投げかけました。中国語は、擬態語が少ないのは感じていましたが、こんな味に関わるのも違いが出てきています。

## 1月 2日 (金)

2時間目に小2で菅原先生が国語の授業を行いました。

友達を魅力的に紹介できるか、取材をするという授業です。「たずねたことをメモして、友だちのよいところをいっぱい見つけよう。」ということで、二人でのペアで質問をする練習をしました。メモをとる練習として、菅原先生にみんなで取材をする練習をしてから本番です。最初2分質問をしました。タイマーが「ぴぴぴ」と鳴ったら、「あーあ」と大合唱。まだまだ質問をしたいのに、という感じでした。菅原先生は、「あと、3分ね」ということで時間を延ばしました。

